

沖縄への加害 直視を

24日から 神奈川区 「琉球処分」140年でパネル展

明治政府が軍や警察も動員して琉球国を日本に組み入れた過程や、現在の沖縄が置かれた状況を学ぶパネル展「琉球処分」から140年 今の沖縄を考える」が24〜28日、かながわ県民センター（横浜市中区）で開かれる。主催する「記憶の継承を進める神奈川の会」の竹岡健治さん（72）は「沖縄で行われている政府の不当な行為を考える上で、本土の人間も『琉球処分』を確認したほうがいい」と呼び掛けている。（柏尾 安希子） Ⅱ 関連記事19・24面に

平和
つなぐ

竹岡さんは、「琉球処分」のほか、太平洋戦争で国内唯一の地上戦となった

沖縄戦、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設問題、そして現在、中国の軍事的脅威を口実に着々と進められている宮古、石垣島など南西諸島への自衛隊配備を同展のテーマに設定。それぞれについて、専門家が監修したパネルや写真、新聞記事など計100点以上を展示す

る。同会は、日本の戦争加害をテーマにしたパネル展を毎年開催しており、その中で「本土側による沖縄への加害」として沖縄戦を取り上げてきた。また、竹岡さんは2016年に過去の歴史教科書の記述を調べ、保守的と話題になった教科書では「琉球処分」への軍や警察の関与を記していないことを知り、関心を持ったという。そこで、140年の節目でもある今年、沖縄戦で亡くなった20万人超をしのぶ「慰霊の日」（23日）に合わせ、6月にパネル展

「本土の人間も知って」



パネル展「『琉球処分』から140年 今の沖縄を考える」への来場を呼び掛ける竹岡さん
＝横浜市中区

の開催を決めた。竹岡さんは「明治政府が最初に獲得した植民地は琉球国。歴史を見ると、沖縄への差別は『琉球処分』から発している。現在の沖縄を考えるには、この点から見ることも重要だ」と話す。25日午後6時半からは、後田多敦神奈川大准教授が「琉球処分」をテーマに講

演（資料代500円）。また27日午後2時から、静岡・沖縄を語る会の富田英司共同代表が「辺野古と南西諸島の自衛隊配備」についてミニ講演（無料）する。入場無料。24日は午後1時から、以後は午前10時から。カンパも募っている。問い合わせは竹岡さん ☎ 90（7405）4276。